

源氏物語活字化成果を披露

諏訪市博物館
プロジェクト

6月1日まとめの会

諏訪市博物館(同市中洲)
は6月1日、同館所蔵の高島



5月の「みんなで読む会」で発表に向けて準備をするプロジェクト参加者14日



申し込みのフォームのQRコード
まとめのQRコード

藩主諏訪家に伝わる「源氏物語」写本全54冊の活字化(翻刻)に取り組む「源氏物語」活字化プロジェクトのまとめの会を同館学習室で開く。午前の部と午後の部に分かれ、プロジェクト参加者55人のうちの19人が、それぞれ担当した巻の考察や現代語訳の朗読などを発表して活動成果を披露する。

人の手で書き写されてきた源氏物語の写本にはいくつかの系統があり、諏訪家本がどの系統に属するのか調べようと、同館が昨秋にプロジェクトを企画。参加者を募ったところ、昨年放送された作者の紫式部が主人公のNHK大河ドラマ「光る君へ」の影響もあつて、県内外から予想を上回る数の応募があつた。

同館によると、物語の本々については翻刻のデータベス化が完了。しかし、諏訪家写本には行間にメモのような書き加えられたさまざまな文章や文字があり、有志らでその部分の活字化に引き続き取り組むという。

まとめの会で朗読をする金澤登美子さん(60)同市城南は「きれいに書き写してあるが、書いた人はいろいろな悩みもしたと思う。そんな風に当時の人に思いをはせながら読むのも楽しかった」といい、「ここまでの発表までしつかりやり切りたい」と話している。

まとめの会は一般公開で実施。時間は午前の部が同10時～正午、午後の部が同1時～3時。聴講の申し込みは21日午前9時から電子申請フォームで受け付ける。定員は各回15人。問い合わせは同館(電話0266・52・7080)へ。(山本雄太)